

橋(川を渡るには②)

貝野瀬編

(1) 仙さん橋

非常に古い時代、片品川は今より下久屋沿いを流れていた。江戸時代の地図には古川と記されている。昔は川が二流して中島となっており、この分岐点に橋が架かっていったようである。小田原北条氏が沼田城を攻めた時、貝野瀬じりから下久屋へこの橋を渡った記録が残されている。また、享保18年(1733年)には土橋が架かっていったことが下久屋の文書に残っている。



貝野瀬村の古道

『貝野瀬の大門から沼田(貝野瀬の大字)に下り片品川を土橋でわたって下久屋河原に出て、不動坂・上沼須さいかち坂より沼田町へのぼる。この橋を仙さん橋ともいった。明治30年代に貝野瀬の吉野仙之助氏が当時流失していた橋を独力でかけ直した』と糸之瀬村誌にある。

糸井からこの土橋へ出ることになったので橋の費用は貝野瀬

村と糸井村で出していた。

(2) 万延橋

『万延年中新二架スル故万延橋ト号ス』とある。

安政3年(1856年)、貝野瀬村から土橋の上流の岩盤へ橋をかけた旨を下久屋村へ申し出、万延年(1860年)、現在の観音堂の裏から発電所の取水口の下に道に、低位置だった岩の上とはいえ、低い位置だったので度々流された。昭和3年、高く木橋をかけた。しかし昭和7年、ある夜半二つに割れておちてしまった。昭和9年、現在の位置に鋼鉄製の橋が完成。欄干は木造だったようである。現在の橋は昭和54年7月5日に開通祝いをしている。



現在の万延橋と発電所の取水口付近



昭和初期の貝野瀬橋(万延橋)の絵はがき

昭和村ボランティアガイドの会

参考 糸之瀬村誌

森 肇子

地域包括支援センターだより

9月是世界アルツハイマー月間

1994年、「国際アルツハイマー病協会」は、世界保健機関と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、認知症への理解や家族を支援する活動を行っています。また、日本でも2024年に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」において、毎年9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と定めています。

認知症とは

脳細胞の死滅や活動の低下により脳の働きに不具合が生じ、理解力・記憶力・判断力が低下したり、時間・場所・人物を正しく認識できなくなるなど、日常生活や社会生活に支障をきたす状態を指します。

認知症は一部の人の病気？

認知症は脳の病気によるもので、誰にでも起こりうる可能性があります。

認知症は治らない？

早期発見と適切なタイミングで治療やケアをすることで、症状を軽減することが可能です。

認知症は予防できない？

運動・食事などの生活習慣の改善で、認知症の発症を遅らせることができる可能性があります。

認知症は早めの対応が肝心です。

同じことを何度も言う・聞く、テレビの内容が理解できなくなったなどの初期症状が見られたら、まずはかかりつけ医に相談しましょう。また、症状についてのご質問や心配事はお気軽に地域包括支援センターにご相談ください。

<認知症ケアパス配付中>

ご自身やご家族、ご近所の方の「もの忘れ」が気になったり、認知症になった場合に活用できる冊子です。もの忘れに関する相談窓口や認知症の症状の進行状況に応じて受けられる福祉や介護のサービスなどがまとめてあります。地域包括支援センターで配布していますので、ご希望の方はお問い合わせください。



問合せ 地域包括支援センター ☎ 20-1126